

2020-11-15

ふじさわ・九条の会ニュース

No.62



発行人 ふじさわ・九条の会 事務局長 吉塚晴夫 090-7949-9854

HP(ホームページ) <http://hws2.spaaqs.ne.jp/fujisawa9jo/>

検索「ふじさわ・九条の会」でも開けます。

日本国憲法 第二章 戦争の放棄

第九条 ①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

菅政権の正体

11/2の予算委員会を見て

安倍晋三は国会論戦で無意味無内容な言葉を羅列して、時間を浪費し結局質問には一切答えずに、終了という手法だった。菅は「先程答弁したように人事に関することには答えない」の一点張りである。菅の語彙は貧しい。過去の官房長官会見で、望月衣塑子記者の質問に「あなたに答える必要は無い」という対応で終始した。また司会の広報室長に「あの女に質問させるな」との指示を出していたのだろう。内閣記者会を恫喝して、シナリオにない質問はさせなかった。こうして菅は自らの答弁能力をトレーニングする機会を潰してきたのだ。

だが説明しない、理由を明かさないということ自体が萎縮効果を発揮し、忖度を加速させる手法であることを菅は十分に意識しているのかも知れない。

安倍政治の継承

菅は安倍政治を継承すると言う。その真意は「森友、加計学園、桜を見る会」をはじめ安倍政権の数々の疑惑は一切究明しない、つまり国民の求めには応じないという意志表示である。安倍政権では外交安保は安倍、内政は菅という役割だった。だから政策的には菅

のやり方を菅自身が継続するということだ。ふるさと納税、GO TO キャンペーン、内閣人事局設置、これらは全て菅が官房長官時代にやったことだ。その本質は利益誘導と恫喝である。菅は自助、共助、公助発言を繰り返している。自分で何とかしろ、駄目なら家族、近所で支えろ、政府に頼るなということだ。菅は日本社会の一番の問題点、格差是正をやる気が全くない。相変わらずの規制改革万能論である。これは安倍政権の8年間で、「国民は誰も救われずに疲弊し、破綻した政策である。」(内橋克人氏より)

菅が安倍政治を継承するなら私たちは言い続けなければならない「アベ政治を許さない！」

学術会議任命拒否

五野井郁夫氏によれば、任命拒否の一番の問題は法の支配に挑戦してきていることだ。近代立憲主義の基礎は法の支配であり、国民に対して国家が好き勝手に出来ないように国を縛るのが法である。菅は沖縄辺野古基地への県民、デニー知事の抵抗に「我が国は法治国家だ。法律に基づいて粛々と工事を進める」と言い放ち、諸外国には「法の支配による開かれたインド・太平洋」を守る、などと言い

放つが、国内では非常に恣意的に、法に従わず好き嫌いで物事を決める。所謂人治主義をいはゆるはばかはばからないのだ。

この任命拒否に600超の団体が抗議の声を上げている。例えば上代文学界は「菅首相は無効で無内容な言い逃れを重ねている。頼むから日本語をこれ以上痛めつけないで貰いたい。」イタリア学会は「時の権力が何が正しくて、何が間違っているかを決めている。この点でガリレオ裁判と変わらない。」

菅のメディア統制と側近

2014年7月、クローズアップ現代。集団的自衛権を巡って国谷裕子キャスターが再三質問し、官房長官菅を追い詰め番組は終了。菅は激怒し「責任は取らせる」と言ったそうである。その後国谷氏は降板。15年3月には報道ステーションで古賀茂明氏が安倍政権を批判して降板。更に古舘伊知郎氏退任。NEWS 23の岸井成格氏退任。何れも菅の差し金とみられる。記者クラブへの恫喝そして首相就任後に国会を開かず、会見をやらすオフレコ懇談なるものを設定し、シナリオ通りのグループインタビューを画策した。更にはTVニュースショーの詳細な監視検閲記録作成など、メディア統制を徹底して支配下に置いてきたのが過去の、そして現在の菅義偉の政治手法である。(赤旗記事より)

安倍は経産官僚と警察官僚を重用してきた。レイプ犯山口敬之の逮捕状を握りつぶした中村格は菅官房長官の秘書官をしていた。また現官房副長官の杉田和博は任命拒否のシナリオ作成者だと言えるが、この男は内調室長、公安警察一筋に歩んできた男である。安倍政権からの国家安全保障局長北村滋と内閣情報官滝沢裕昭も警察官僚出身である。

菅と沖縄

先日のふじさわ・九条の会学習会で会場正面に掲示したのは「ウチナーンチュ、ウシェーティナイビランドー」という「しまくとぅば」である。これは2015年5月17日、沖縄県

民大会での故翁長雄志さんの言葉だ。「沖縄人を、ウチナーンチュをないがしろにはなりませんよ」という意味だが、これは当時の首相安倍晋三と官房長官菅義偉に向けた言葉である。菅は当時の翁長知事に対して「辺野古が唯一の選択肢、工事は粛々と進める」と言い放ち、沖縄県民の激しい怒りを掻き立てた。菅は翁長さん当選後、4か月も面会を拒否し、また翁長さんが明治政府の琉球処分から沖縄戦の犠牲、米軍支配から今日の米軍基地の集中による被害を切々と訴えたのに対して、菅は翁長さんと同世代であるのに「私は戦後生まれだから歴史を言われても分からない」と言い放ち、翁長さんは深く失望した。安倍と菅が沖縄に持ち込んだ分断に、晩年の翁長さんは「県民同士が争う様子を上から笑って見ている人がいる」と周囲に漏らし、体調を悪化させていった。

「辺野古が唯一の選択肢」とは思考停止に他ならない。考える事の放棄である。安倍と菅は8年前もこれからも、この思考停止の言葉を言い続けるだろう。何故なら考えたくないからだ。少しでも自分の頭で考えれば、辺野古の工事がおよそ馬鹿げたものであり、完成不可能な愚行であることが分かってしまうからだ。先日菅は玉城デニー知事に面会した。時間はたったの5分だそうである。菅の「粛々と」という枯れ木のような貧しい思想が、この5分という時間に如実に表現されているのではないか。

ところで菅は神奈川2区選出の議員である。神奈川からは菅内閣、自民党の枢要なメンバーが輩出されている。河野太郎は茅ヶ崎、小泉進次郎は横須賀、大和から甘利明そして参議院では八紘一宇礼賛の、厚労副大臣に就任した三原じゅん子に毎回100万票の票を与えて、トップ当選させているのが私たち神奈川県民だ。沖縄の人々との連帯を考える時、私たち神奈川県民の責任は大きいと私は思う。再度翁長さんの言葉を受け止めたい。「ウチナーンチュ、ウシェーティナイビランドー」

(吉塚晴夫)



菅義偉首相が日本学術会議の新会員候補のうち6人を任命しなかったというニュースは、10月1日にしんぶん赤旗が「学術会議へ人事介入」の見出しで6人の氏名入りで報じた。その中に加藤陽子さんの名前を見つけた「炭鉱のカナリヤ」が騒ぎ出す。たまたま深夜に視聴していたツイキャス（個人の動画生配信）の菅野完氏もカナリヤだった。彼は「明日からハンガーストライキをやる」と宣言して、本当に翌10月2日の19時から首相官邸前でハンストに入ったのだ（なんと、水分と塩だけで臨時国会の開く26日まで25日間続けた）。そしてラジオで任命拒否された松宮孝明教授（立命館大学）本人が「とんでもないところに手をつこんできた」と、真っ向批判なさっているのを聴いて「これ私もなにかやらなきゃ」と直感する。私にできること、、、まずはバナー作成だ。

「日本学術会議への人事介入に抗議します」「学問の自由 言論の自由 表現の自由」「言論弾圧じゃんか!」「心はどこまでも自由なんだよ!」。言いたいことを込めたバナーが4種類できあがる頃には「明日から駅前に立とう」と心は決まっていた。ネットプリントにアップロードして、深夜のセブ

ンイレブンでプリント。道行く人に伝わるようにA2サイズ B1サイズに出力してボードに貼り付けた。この辺り、マネキンフラッシュモブの活動の中で身についたスキルが役立っている。

10月3日午後2時、藤沢駅南口2階デッキに立つ。Facebookで宣言したら5人駆けつけて立ってくださって。道行く人の反応もなかなかいいので気を良くして「明日もやろうか、ボードも作ったし」。これが、ひと月経った11月3日現在、やめられないでいる。なぜだ。なぜ違法な任命拒否が撤回されないのだろう。菅首相の説明は意味不明、デマが流され（撤回されても後の祭り）、「学術会議のほうに問題がある」「あり方を検討するべき」と、去年の「あいちトリエンナーレ・表現の不自由展中止事件」のデジャブのように、問題がすり替えられようとする。いやいや、その話じゃなくて。「6名足りてない」という違法な状態を解決できるのは任命権者である菅首相だけ。法に則って速やかに任命を。この国がまだ法治国家で民主主義国家であるならば。

誰かを見せしめにして「オレに逆らうとこうなるぞ」とやってみせたのはすでにファシズムだけど。

秋の学習会 映画とお話 「ドローンの眼」と久保博夫さんのお話 の感想です。



今までも、辺野古の状況を映像で観てきましたし、その度、胸の痛い想いになり、何かしなくては…と焦燥感に駆られたりしてきました。

しかし、ドローンの映像は、それを超えて、突き刺さりました。鮮明で、広角に撮影された映像は、本当に多くの事を訴えるのだと思いました。何度か観ていた、辺野古の埋め立てシーンですが、泥が流し込まれる瞬間は、「あっ」と声が出て、泣きそうでした。

ドローンで自衛隊の基地内を撮影していた島民に、自衛官が「自分の家の中を撮影されたら嫌でしょう」と問うと、住民は「基地は、家ではない」ときっぱり言っていたのけたシーンには、胸がすっきりしましたが、撮影直後には改正ドローン規制法が施行されます。何の為の改正なのかが、厭らしくて、悔しいです。

久保さんのお話は、情報量の膨大さ、実体験に基づく一言一言の説得力に圧倒されました。

先島諸島の自衛隊基地建設に伴う隊員の移住により住民の構成が変わってしまい、選挙に大きな影響を及ぼしていることを知りました。自衛隊の皆さんの来島を、日の丸を振って迎え入れる島民の皆さんの姿は、複雑な思いがしました。基地問題は、建築会社の経営事情等、沖縄の皆さんの生活そのものを脅かし、振り回しているのだと、実感します。

久保さんの言葉から、沖縄の現状がリアリティーをもって、強く感じられました。沖縄の皆さんに、理不尽な思いを永年にわたり強いている日本政府を、そのままにしているのは、他でもない、国民である私なのだと思うと、悔しくて、情けなくて、堪らない気持ちになります。今までも、沖縄に思いを寄せる自分でありたいと思ってきましたが、吉塚事務局長の力強いご挨拶、一言一言に励みを頂いて、今日からはまた、沖縄への思いを強くして、自分にできる事を日々考え実行してゆきたいと思います。

ふじさわ・九条の会 秋の学習会、当日の参加者は53名、沖縄への支援カンパは、56,000円以上集まったのだそうです。53名の皆さんの思いと共に、久保さんが、支援カンパを届けて下さるそうです。遠くにいても、思いを届けて下さる事、その機会を下さるふじさわ・九条の会の皆さんに、心から感謝申し上げます。
(S・A)